



雨に思う

校長 関根 祐一

梅雨の最中ですが、晴れ間も多く、プールから子どもたちの歓声が響いてきます。

6月26日（木）には、所小フェスティバルが開催されました。代表委員さんたちによるICT環境を生かした工夫した運営と、6年生の優しいリーダーシップで、1年生から6年生の縦割り班の皆が楽しく触れ合うことができた、笑顔一杯の所小フェスティバルになりました。とても良い思い出になったことと思います。

これからは1学期のまとめに取り組んでいきます。より良いまとめとなるよう努めてまいります。



所小フェスティバルでの活動風景



校地西側の枇杷の木

今年の梅雨は雨の日は多くないものの、とても蒸し暑く、西日本地方では早くも梅雨が明けたようですので、こちらも梅雨明けが待ち遠しいところです。雨が續くと面倒が増えますし、屋外でできなくなることも多いですから、できることなら晴れてほしい、降ってほしくないと思う毎日です。

ですが、私自身が幼かった頃は、全く個人的な私の感覚ですが…、トタンを叩く雨の音、雨粒が草木や傘、カッパにあたる優しい音、池や水たまりにできる雨の波紋、夕立の降り始めの独特の空気、葉っぱの上をゆっくり進むでんでん虫…、雨、嫌ではなかったです。むしろ、

何か気持ちが落ち着くように感じていたことを思い起こします。沢山ある雨に関連する言葉には「草木を潤し生長を促す、恵みの雨」を表す「甘雨」という言葉もあります。

優先したい都合を少しだけ横に置いておいて見てみたり、視点を変えて見てみたりすると、そのものの良さや大事なところがあらためて見えてくることや、別の景色が見えてくることがあるのかもしれません。

とは言え、昨今の災害級の大雨・雷・突風、増水・冠水は話が別です。何よりも「安全」が最優先です。これからの梅雨の終わりにかけては雷や局地的な集中豪雨が心配されます。学校でも気象情報や実際の天候の変化に細心の注意を払ってまいります。ご家庭でもご留意くださいますようお願いいたします。

学校では年に3回、子どもたちに学校生活について訊く「なかよしアンケート」を実施しています。1回目のアンケートを学期の半ばに実施し、子どもたちの支援に資しました。その中の「あなたは今、学校が楽しいですか」という質問については、「とても楽しい」「楽しい」の回答が大変多く返ってきました。

多くの子が「学校は楽しい」と回答している一方で、「楽しさを感じていない」という思いの回答も少なからずあります。このアンケートで最も大事なものは、勿論、一人一人の「思い」です。成長の過程では、壁を目の前にすることもあるでしょう。子どもの「伸びたい」「向上したい」「なかよく学びたい」という願いを、あらためて受け止め、応えていくことができる学期末にしていきたいと思っています。そのためには、ご家庭と学校の連携、協働が極めて重要です。学校から連絡させていただくこともございますが、ご家庭でお気づきのこと、ご質問、ご相談等ございましたら、日頃から気兼ねなくお知らせ、ご連絡ください。よろしくお願いいたします。